

1998年(平成10年)阿嘉島臨海研究所の1年間の動き

List of research activities by visitors and the staff members in 1998

主な利用者と研究課題等

- 1月 「サンゴ礁によるCO₂固定バイオリクター構築技術の開発」野崎健ほか(通産省工業技術院電子技術総合研究所)
「海洋微生物が生産する生物活性物質の構造と機能に関する研究」小玉健太郎ほか(三共(株)筑波研究所)
(4,8月にも実施)
「しらべてサイエンス」の取材、津川明久ほか(NHK教育)
- 2月 「水中マイクロスコープの稼働実証試験」高木力ほか(海洋科学技術センター)
「座間味村産業祭り」で阿嘉島臨海研究所の活動内容を展示紹介
- 3月 「造礁サンゴの刺胞の観察」林原毅(水産庁西海区水産研究所石垣支所)
「阿嘉島周辺海域の現生有孔虫についての研究」八田明夫(鹿児島大学)
「海・知られざる世界」(NHK出版)の取材、名富さおり(マインド・コミュニケーション)ほか
- 4月 「パラオ共和国サンゴ礁保全センター建設計画第2回基本設計調査」に下池和幸(阿嘉島臨海研究所)が技術参与として参加
- 6月 「ミドリイシ属サンゴの異種間交配実験」服田昌之(国立遺伝学研究所) 深見裕伸ほか(東京水産大学): 阿嘉島臨海研究所との共同研究
「NHKスペシャル、沖縄大サンゴ礁を潜る」の取材、鈴木哲裕ほか(NHK)
「サンゴ礁魚類群集構造の比較研究」中園明信(九州大学) D. R. Robertson(スミソニアン熱帯研究所)
「Acropora属サンゴの群体内における卵の分布」北田英之(東京水産大学)
「造礁サンゴの産卵誘発実験」林原毅(水産庁西海区水産研究所石垣支所)
「造礁サンゴ幼生の着生機構に関する研究」Aileen N. C. Morse ほか(カリフォルニア大学サンタバーバラ校): 阿嘉島臨海研究所との共同研究(～7月)
「国立科学博物館常設展示 - サンゴ礁の多様性 - に関連した調査・採集」並河洋ほか(国立科学博物館)(～7月)
- 7月 「八放サンゴレクチンの構造と共生における役割」小池一彦ほか(北里大学)
「家ぞばっく沖縄ハックルベリー体験日記」近畿日本ツーリストにて、サンゴ教室を実施(～8月)
- 8月 「サンゴ礁によるCO₂吸収量の測定法の検討」立田穰((財)電力中央研究所)
「サンゴ礁の赤土汚染調査」大見謝辰夫(沖縄県衛生環境研究所)ほか
「屋嘉比島におけるウミガメとアカマタの生態に関する研究」太田英利・平手康市(琉球大学) 森哲(京都大学) G. M. Bughardt(テネシー大学)ほか
「シグナル伝達阻害剤の探索とブラヌラ着生の機構」梅澤一夫(慶應義塾大学理工学部)
「Japan Video Topics」(外務省海外広報課)の取材、服部健吾ほか(インターナショナル映画)
「サンゴ礁のモニタリング調査」 Robert van Woessik ほか(琉球大学)
- 9月 「白化サンゴの撮影」真木正利(ソニー) 横井謙典ほか(ブルートライ)
「リーフ・チェック98座間味村」に下池和幸(阿嘉島臨海研究所)がチーム・サイエンティストとして参加
- 10月 「視察会」栗田亘(朝日新聞) 田中宏(田中三次郎商店)ほか
「阿嘉島周辺サンゴ礁域における動物プランクトンの種組成とその季節変化」磯川晴章(東京水産大学)
「石西礁湖湧昇流推定海域における造礁サンゴの成育状況に関する研究」下池和幸ほか(阿嘉島臨海研究所)が海洋科学技術センター石西礁湖調査に参加
- 11月 日本サンゴ礁学会第1回大会(於東京)にて口頭発表。「慶良間列島阿嘉島におけるイシサンゴ類の産卵」下池和幸(阿嘉島臨海研究所) 緊急討論 - サンゴ白化問題 - 「阿嘉島周辺海域におけるサンゴの白化について」谷口洋基(阿嘉島臨海研究所)
「海洋生物の多様性に関する研究」宮地重遠(海洋バイオテクノロジー研究所) Ghazally Ismail(マレーシア大学)ほか
「イシサンゴ類の同定技術の習得」稲葉慎(小笠原海洋センター)
「海綿・ホヤの生物活性二次代謝産物の研究」浪越通夫(東京水産大学) 酒井隆一(北里大学) Kenneth L. Rinehart(イリノイ大学)ほか

その他の主な来訪者

坂田章吉ほか(JICA無償資金協力調査部) 及川良一(教頭)ほか都立九段高校の修学旅行生、小池義夫(船長)ほか東京水産大学練習船神鷹丸の実習生、伊藤英樹ほか(海洋科学技術センター) アセアン諸国研修生(JICA沖縄国際センター海洋保全コース) 山田吉彦(日本財団) 綿貫啓((株)テトラ)

AMSL 刊行物

「みどりいし」No.9、「アムスルだより」Nos.29～34